口蓋に発生した MALT リンパ腫の 1 例

山口昭彦・吉田博昭*・藤田茂之*
西田光男*・山田剛也**・飯塚忠彦*

A case of MALT lymphoma of the hard palate

Akihiko YAMAGUCHI・Hiroaki YOSHIDA*・Shigeyuki FUJITA*
Mitsuo NISHIDA*・Tatsuya YAMADA**・Tadahiko IIZUKA*

Abstract: A case of MALT lymphoma of the hard palate is reported. A 72-year-old woman visited us because of swelling of the right side of the hard palate. Examination of a biopsy specimen revealed a MALT lymphoma. The tumor was surgically removed. Two and a half years after the operation, there were no signs of recurrence. In this report, the clinical course and histopathological findings are described and discussed.

Key words: MALT リンパ腫 (MALT lymphoma), 硬口蓋 (hard palate), 免疫組織化学 (immunohistochemistry)

緒 言

近年, MALT リンパ腫 (mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma) の概念が Isaacson らによって提唱され, 注目されている¹⁾. 本腫瘍は, 胃, 腸, 唾液腺, 甲状腺, 肺に好発し, 橋本病や Sjögren 症候群などの自己免疫疾患との関連が示唆されている²⁾. 今回われわれは, 口蓋部に発生した MALT リンパ腫の 1 例を経験したので報告する.

症 例

患 者: 72歳 女性.

初 診: 平成 7 年 11 月

主 訴: 口蓋部腫脹.

既往歴: 高血圧, 白内障.

現病歴: 平成 7 年 11 月, 上顎義歯不適合のため近歯科受診, 口蓋部の腫瘤を指摘され, 11 月, 彦根

市立病院歯科口腔外科を紹介受診した.

全身所見: 特記事項なし.

口腔内所見: 上下顎無歯顎で, 義歯使用による圧痕が見られ, さらに右側硬口蓋部に弾性軟で, 表面平滑な約 35mm 大の腫瘤を認めた (写真 1). 同部に圧痛はなく, 周囲との境界は明瞭であった.

X 線所見: パノラマ, およびウォーターズ X 線写真では, 上顎骨部の異常所見は認められなかった.

臨床診断: 口蓋腫瘍.

処置および経過: 初診時外来にて同部の生検を行い MALT リンパ腫の診断を得たため, 手術目的で, 12 月 1 日に彦根市立病院に入院した.

平成 7 年 12 月, 全身麻酔下で腫瘍周囲の健常組織を約 10mm 含めて骨膜下の深さで腫瘍を一塊として切除した (写真 2). 口蓋部の骨露出部を骨バーにて削除し, 止血後にテルダーミスを貼付し, 予め作成して

北野病院歯科口腔外科

(主任: 原 義治医長)

*京都大学大学院医学研究科・感覚運動系病態学講座・

口腔機能病態学分野 (口腔外科学)

(主任: 飯塚忠彦教授)

**彦根市立病院歯科口腔外科

(主任: 山田剛也)

Department of Dentistry and Oral Surgery,

Kitano Hospital (Chief: Yoshiharu Hara)

*Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Graduate of Medicine, Kyoto University (Chief: Prof. Tadahiko Iizuka)

**Department of Dentistry and Oral Surgery, Hikone Municipal Hospital (Chief: Tatsuya Yamada)

受付日: 平成 10 年 4 月 9 日

写真1 初診時口腔内写真
弾性軟で、表面平滑な腫瘍を認めた。

写真2 摘出物写真

約35mm大の腫瘍で、周囲の健常組織を10mm含めて切除した。

写真3 病理組織写真 (H-E 染色, 弱拡大), リンパ球の著しい浸潤と、リンパ濾胞が認められる (矢印)。

写真4 病理組織写真 (強拡大)

上段: (H-E 染色) Centrocyte-like cell の著明な増生が見られた (矢印)。

下段: (免疫組織化学染色) L26 (CD20) 陽性で, B cell 系の細胞であることが確認された (矢印)。

おいたレジン製保護床を装着した。術後感染もなく手術創は良好に治癒し、2年6か月経過した現在、再発傾向もなく経過良好である。

病理組織学的所見: 淡明な胞体を有する細胞境界明瞭な centrocyte-like cell の増生がみられ、これらは、L 26 (CD 20) 陽性で B cell 系の細胞であった。さらに、いわゆる lymphoepithelial lesion もみとめられ、myo-epithelial sialoadenitis に関連した MALT リンパ腫の所見であった (写真3, 4)。

考 察

MALT リンパ腫とは、胃、腸、唾液腺、甲状腺、肺などの上皮組織と密接な関連を示すリンパ組織を有する節外性臓器に発生した悪性リンパ腫で、慢性炎症や自己免疫疾患との関連が示唆されているもので、1983年に Isaacson らによって初めて報告されたものである¹⁾。Isaacson らによる概念の確立以前には、そのリンパ腫の多くは臨床経過が不顕性であり、唾液腺、甲状腺などでは、血清学的にも背景となる自己免疫疾患

との区別のつかない所見がある点から、多くは炎症性または反応性病変として分類されていた²⁾。

本病変の病理組織学的特徴として、1) 反応性リンパ濾胞が常に存在し、腫瘍細胞がこれらの間をび漫性に浸潤する。2) 腫瘍細胞は不正な核を有する small,あるいは medium sized cell で、多くの場合胚中心構成細胞の centrocyte に類似するが、特に monocytoid cell の形をとる。3) 腫瘍細胞は選択的に粘膜上皮に浸潤し、いわゆる LEL (lymphoepithelial lesion) を形成する。また病変の進行に連れて濾胞形態は不正となり、消失したり、濾胞性リンパ腫に似た像を示すことなどがあげられる¹⁾。

現在、MALT リンパ腫は低悪性度の筋外性リンパ腫と定義されている³⁾。

治療法について Bridges らは過去の症例を検討し、原発部位の摘出にて予後がよいこと、放射線療法や化学療法では効果が低いこと、耳下腺外に進展した症例では予後が悪いこと、また、LEL (lymphoepithelial lesion) から悪性リンパ腫へ移行した症例において、その移行期間は1年から12年であったことを報告している⁴⁾。したがって、BLEL (benign lymphoepithelial lesions) や Sjögren 症候群症例で生じた悪性 MALT 型リンパ腫に対しては、積極的な手術的治療と、術後の局所および全身の長期経過観察が重要と思われる。

しかし、今日では、胃内に *helicobacter pylori* (Hp) が生息していることは、周知の事であり、近年 Stolte らによると、胃での MALT リンパ腫が *helicobacter pylori* (Hp) の除菌によって治癒したという報告がされている⁵⁾。

口腔領域に関する報告では、胃内で *helicobacter*

pylori (Hp) が陰性であった10人の患者の歯垢内の *Helicobacter pylori* (Hp) を PCR 法により検索したところ陽性であったという報告がある⁶⁾。

現在、*helicobacter pylori* (Hp) 感染と胃の MALT リンパ腫との関連性は確立されているが、口腔内に関する報告はない。今後はさらに症例数を増やし、長期的な経過観察とともに口腔領域における *helicobacter pylori* (Hp) 感染と MALT リンパ腫との関連についての研究が必要と考えられた。

引用文献

- 1) 北 俊之, 藤村政樹, 他: 耳下腺原発, mucosa-associated lymphoid tissue (MALT) 由来の肺非ホジキンリンパ腫の1剖検例, 日胸疾会誌 33: 1119-1124 1995.
- 2) 阿部 元, 迫 裕孝, 他: 耳下腺原発, mucosa-associated lymphoid tissue リンパ腫の1例. 日臨外医会誌 55: 882-885 1994.
- 3) 千葉 勉: 消化管 MALToma と *Helicobacter pylori* 感染. 日消誌 94: 233-240 1997.
- 4) Bridges, A.J. and England, D.M.: Benign lymphoepithelial lesion; relationship to Sjögren's syndrome and evolving malignant lymphoma. *Semin Arthritis Rheum* 19: 201-208 1989.
- 5) Stolte, M. and Eidt, S.: Healing of gastric MALT lymphomas by eradicating *H. pylori*? *The Lancet* 342: 568 1993.
- 6) Olsson, K., Wadström, T, et al.: *H pylori* in dental plaques. *The Lancet* Vol 341: 956-957 1993.